

科目名称	芸術工学概論／芸術工学概論B（デザインと表現）			授業コード	10004439
担当教員	齊木 崇人		佐藤 優		
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	選択必修、芸術工学基礎 (2019・2020年度入学生のみ) / 芸術工学
年次	1	開講年度	2020	開講学期	前期
関連資格	教職、インテリアプランナー				
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	<p>授業の目的 現代のアート・デザイン・メディアの融合から生まれる表現の多様性と表現の技術を理解できる。</p> <p>到達目標 科学技術と芸術文化を融合する芸術工学の基礎となる専門的知識を身につける。</p>				
授業の概要(内容)	<p>芸術工学の基礎として、科学技術と芸術文化を融合させ25の各専門のコースで実践されている最新の表現の理論とその表現を支える技術の役割を考究する。</p> <p>芸術工学の学術活動は、人間に最もふさわしい生活環境を創造することにある。講義では、人間をとりまく小さなスケールから順次大きなスケールを扱い、人間の身体を包む「ファッションデザイン」から始まり、暮らしを支える「クラフトやプロダクトデザイン」、人々の営みを豊かにする「アートやビジュアルデザイン」、人々の出会いと交流を生む「メディアアートやコミュニケーションデザイン」、そしてこれらの人間活動を包む、「建築・都市・ランドスケープなどの環境デザイン」に融合される。</p> <p>芸術工学には、情報と経済のグローバル化、地球温暖化などによる自然生態の変化、自然災害の被害や開発や紛争などによる環境破壊、少子高齢化や経済の急激な変動と低迷など、「芸術工学」の学術活動に求められる克服すべき新たな挑戦課題が顕在化している。</p> <p>芸術工学には、具体的な表現活動を通して、時代が要請する先端の適正技術や芸術文化を融合させる柔軟性と適応力を持つ創造的人材が求められ、豊かな未来社会を作る役割があることを学習する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1: 芸術工学とは 2: 地域社会と大学のアート&デザイン連携 3: ジュエリーやガラス素材の成形と表現技術 4: 椅子を作る技術と社会の志向の変容 5: 古九谷・現代九谷と海外のクラフト教育 6: インダストリアルデザインとICTの変容 7: ネット・デジタル技術による漫画表現とSFの未来 8: デジタルコンテンツと先端の映像表現 9: インタラクションとインスタレーション 10: ポスターとエディトリアルデザインの表現技術 11: ファッションデザインと人間のための表現技術 12: 色とテキスタイルの復元、染と色とアートプロジェクト 13: 個人や社会に与えるアートとデザインの底力 14: 空間の居心地と環境デザイン 15: 環境が作り建築・建築が作る環境 				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	毎回配布する参考文献や映像のURLなどのリストを、情報図書館等で確認すること。				
評価方法	授業で課すレポート課題の合計15回で90%の評価を行い、最終試験はレポート課題とし10%の評価を行い、集計し総合評価とする。				
課題・試験に対するフィードバックの方法					
使用テキスト					
参考テキスト・URL	適宜、毎回の授業で紹介する。				
各自準備物					
実習費					
その他	<p>この授業は、学科の専任教員とともに授業を実施する。</p> <p>毎回の講義では、授業始めに各回のレポート課題を提示する。</p> <p>その後、各教員が20分程度の講義を行う。</p> <p>各教員の講義後、レポートを作成し提出する。</p> <p>講義は映像で記録し、概要を編集し学内に公開する。</p>				

科目名称	神戸デザイン学 / 芸術工学A(神戸デザイン学)		授業コード	20004453	
担当教員	見寺 貞子	山之内 誠、曾和 具之、かわい ひろゆき、山崎 均、友定 聖雄、小浦 久子、菅野 博之、高台泳、相澤 孝司、橋本 英治、川北 健雄、佐野 浩三			
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	芸術・デザイン／芸術工学
年次	1	開講年度	2020	開講学期	後期
関連資格					
履修制限等					
授業の目的と到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化をアート・デザインの視点から時系列的に学び、自らの発想や表現に活用する能力を習得する。 ・アート・デザイン手法を他分野の事例から学ぶことにより自らの特性や役割を確認する。 ・本授業で学んだ知識を、社会や他国・他地域の中で活用・実践できる能力を習得する。 				
授業の概要(内容)	<p>神戸市は、ユネスコのデザイン都市に認定され、アートとデザインを通じて、地域や市民生活の向上を目指している。人間らしいあわせを実感できる創造都市「デザイン都市・神戸」を推進する中、本学は、神戸という地域との結びつきを重視し、地元自治体、公共団体、企業などと様々な取り組みやプロジェクトを実施している。その内容はアートプロジェクトなどの芸術分野から、地場産業との商品開発や技術支援など多岐にわたる。本授業では、これら多くの具体的な事例を学習しつつ、今後、地域に必要とされるアート・デザインがもつ可能性について考える。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション: 本授業の概要説明 2: 神戸ファッションの歴史 3: 神戸のまちの歴史 4: 映像で見る神戸 5: 神戸洋家具産業の変遷 6: 神戸のまちの成り立ちと都市デザイン 7: 神戸のVIデザイン 8: まちづくりの実践 9: 神戸のアート・デザイン環境 10: 神戸のパブリックアート 11: 有馬温泉・六甲山上地区における観光デザイン 12: マンガで地域の活性化 13: 地域で創る・育む里山環境 14: ボランティアと社会貢献 15: まとめと試験 				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各講師がスライドや資料により指導を行っていく。各回の授業に対し、各々が事前の調査や予備知識の準備を行う。 ・予備知識として、現在の兵庫・神戸の社会状況を把握するための情報収集を行う。また、兵庫・神戸の地域性を把握するため、自らの足で様々な地域を歩き、見て、聞き、情報収集しておく。 				
評価方法	毎回の講義に対して、所定のレポート用紙の提出を義務付け、その内容を総合的に評価する。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	毎回の講義に対しての質問は、担当教員が適宜返答する。また、期末の授業アンケートの学生質問に対しては、授業アンケートフィードバックコメントで返答する。				
使用テキスト	毎回の講義に対して、資料を配布する。				
参考テキスト・URL	兵庫県・神戸市のHP				
各自準備物					
実習費					
その他	講義テーマ・順番については変更有				